

# 中 部 山 岳 森 林 計 画 区

## 第 四 次 国 有 林 野 施 業 実 施 計 画 書

計画期間 自 平成23年 4月 1日  
至 平成28年 3月31日

中部森林管理局

この国有林野施業実施計画（以下「本計画」という。）は、国有林野管理経営規程に基づき、国有林の地域別の森林計画及び地域管理経営計画に即し、森林管理局長が森林計画区域内の管理経営する国有林野の箇所別の伐採、更新等について5年ごとにたてる5年間の計画である。

この本計画の計画期間は平成23年4月1日から平成28年3月31日までの5年間である。

## 目 次

1	国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域	1
2	施業群及び生産群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積又は標準伐採量、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量	1
	(1) 伐採造林計画簿	1
	(2) 水源かん養タイプにおける施業群別面積等	1
	(3) 水源かん養タイプの施業群別の上限伐採面積	3
	(4) 生産群別の面積等	3
	(5) 標準伐採量	3
	(6) 伐採総量	4
	(7) 更新総量	5
	(8) 保育総量	5
3	林道の整備に関する事項	6
4	治山に関する事項	8
5	保護林及び緑の回廊の名称及び区域	9
	(1) 保護林の名称及び区域	9
	(2) 緑の回廊の名称及び区域	13
6	レクリエーションの森の名称及び区域	14
7	その他必要な事項	22
	(1) 施業指標林、試験地等	22
	(2) フィールドの提供	22

1 国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域  
国有林野施業実施計画図による。

2 施業群及び生産群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積又は標準伐採量、伐採箇所  
ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量

(1) 伐採造林計画簿

伐採・更新箇所ごとの伐採・更新面積及び方法等については、別冊の伐採造林計画簿に示すとおりである。

(2) 水源かん養タイプにおける施業群別面積等

(単位：ha、年)

施業群		面積	施業の方法等		伐期齢 又は 回帰年
			施業方法	目標とする森林	
小面積 分散型	小面積 分散 伐区	1,194.96	育成 単層林 施業	伐区を縮小、分散化させることにより、小流域単位で見た時モザイク的配置となることで、林齢、林相が異なる多様な森林を成立させる。 伐採方法は皆伐による。	スギ 60  ヒノキ 75  カラマツ 60
長伐期	長伐期	2,630.83	育成 単層林 施業	主伐は、伐期齢のおおむね2倍以上の林齢において行い、成長の旺盛な時期から主伐までの間に成長に応じた間伐を繰り返し、下層植生の発達した森林を成立させる。 伐採方法は皆伐による。	スギ 120  ヒノキ 150  カラマツ 100

(単位：ha、年)

施業群		面積	施業の方法等		伐期齢 又は 回帰年
			施業方法	目標とする森林	
複層型	人工林 複層伐	1,087.28	育成 複層林 施業	人工林において、複層伐により部分的に伐採し、人為により複層林化を図り複数の樹冠層を構成（階層構造）する森林を成立させる。	ヒノキ 150 [75] カラマツ 100 [60] スギ 120 [60]
漸伐 複層型	天然林 漸伐 複層型	244.47	育成 複層林 施業	天然林において、漸伐により部分的に伐採し、人為的あるいは天然力により複層林化を図り複数の樹種及び樹冠層を構成（階層構造）する森林を成立させる。	N 200 L 180
択伐 複層型	人工林 択伐 複層型	854.39	育成 複層林 施業	人工林及び天然林において、択伐により部分的に伐採し、人為あるいは天然力により複層林化を図り複数の樹種及び樹冠層を構成（階層構造）する森林を成立させる。	N95 L95 (35)
	天然林 択伐 複層型	1502.28	天然 生林 施業		N 200 L 180 (25～35)
その他	その他	10.33	試験地等の設定目的による。		
合計		7,524.54			

(注) 1 林地以外の土地の面積は含まない。

2 ( ) は回帰年、[ ] は複層林の初回伐採の伐期齢である。

(3) 水源かん養タイプの施業群別の上限伐採面積 (単位：ha)

施業群	上限伐採面積
小面積分散型	79.66
長伐期	87.69
複層型	72.49
漸伐複層型	6.11
択伐複層型	336.67

(注) 上限伐採面積は、計画期間(5年)分の面積である。

(4) 生産群別の面積等 (単位：ha、年)

生産群	面積	生産目標等			伐期齢
		樹種	生産目標	期待径級	
ヒノキ中径材	85.87	ヒノキ	芯持柱材や一般建築材を主とした生産	28cm	75
スギ中径材	8.95	スギ	芯持柱材や一般建築材を主とした生産	26cm	60
合計	94.82				

(注) 1 林地以外の土地の面積は含まない。  
2 期待径級は胸高直径である。

(5) 標準伐採量

当該計画区の資源の循環利用林はすべて分収造林契約に基づく分収造林及び分収育林契約に基づく分収林であるため標準伐採量は定めない。

## (6) 伐採総量

(単位：m<sup>3</sup>、ha)

区 分		林 地					林 地 以 外	合 計
		主 伐	間 伐	小 計	臨 時 伐 採 量	計		
水 土 保 全 林 保 護 タ イ プ	国 土 保 全 タ イ プ			(1,604.14) 91,152	91,152			
	水	小 面 積 分 散 型	7,362	(429.68) 28,422	(429,68) 35,784			
		源	長 伐 期		(1,166.88) 78,049	(1,166.88) 78,049		
	か ん	人 工 林 複 層 伐	5,919	(80.05) 3,916	(80.05) 9,835			
		養	人 工 林 択 伐 複 層 型		(245.31) 11,977	(245.31) 11,977		
	イ ブ	小 計	13,281	(1,921.92) 122,364	(1,989.24) 135,645			
		計	13,281	(3,526.06) 213,516	226,797			
	森 林 と 人 と の 共 生 林	森 林 空 間 利 用 タ イ プ			(185.99) 11,864	(185.99) 11,864		
計			(185.99) 11,864	(185.99) 11,864				
資 源 の 循 環 利 用 林	ヒ ノ キ 中 径 材			(5.85) 349	(5.85) 349			
	計			(5.85) 349	(5.85) 349			
合 計		13,281	(3,717.90) 225,729	239,010	24,990	264,000	264,000	
年 平 均		2,656	(743.58) 45,146	47,802	4,998	52,800	52,800	

(注) ( ) 書きは間伐面積である。

## (7) 更新総量

(単位：ha)

区 分		水 土 保 全 林			森 林 と 人 と の 共 生 林			資 源 の 循 環 利 用 林	合 計
		国 土 保 全 種 別	水 源 かん養 種 別	計	自 然 維 持 種 別	森 林 空 間 利 用 種 別	計		
人 工 造 林	単 層 林 造 成		14.70	14.70					14.70
	複 層 林 造 成		11.08	11.08					11.08
	計		25.78	25.78					25.78
天 然 更 新	天 然 下 種 第 1 類								
	天 然 下 種 第 2 類								
	計								
合 計			25.78	25.78					25.78

## (8) 保育総量

(単位：ha)

区 分		水 土 保 全 林			森 林 と 人 と の 共 生 林			資 源 の 循 環 利 用 林	合 計
		国 土 保 全 種 別	水 源 かん養 種 別	計	自 然 維 持 種 別	森 林 空 間 利 用 種 別	計		
保 育	下 刈		134.94	134.94					134.94
	つる切	61.15	235.30	296.45		2.60	2.60	18.73	317.78
	除 伐	542.40	306.08	848.48		7.53	7.53	9.20	865.21

3 林道の整備に関する事項

(単位：m)

基幹・その他別	開設・改良別	路線名	林班・箇所	延長	備考
基幹	開設	鹿島川	501 1箇所	2,300	
	改良	湯川	138 1箇所	50	
		大白川	156外 3箇所	90	
		池の沢前川	148外 2箇所	50	
		島々谷	230外 3箇所	90	
		鹿島川	501外 2箇所	60	
		横川併用	604外 3箇所	90	
		乳川馬羅尾(馬羅尾)併用	582 1箇所	30	
		白馬	623外 2箇所	60	
		中ノ沢併用	582 1箇所	40	
		乳川馬羅尾(乳川)	576 1箇所	20	
		奈川黒川(黒川)	308外 2箇所	40	
		奈川黒川(赤田)併用	348外 2箇所	40	
		奈川黒川(奈川)	364外 5箇所	400	
		奈良井	1549外 2箇所	60	
		坊主(桑崎)	1580外 2箇所	60	
		坊主(羽瀨)	1558外 1箇所	20	
		贄川橋戸(橋戸)	1617外 6箇所	227	
		贄川橋戸(贄川)	1600外 2箇所	60	
		計		41箇所	1,487
その他	開設	羽瀨	1502外 1箇所	2,000	
		黒沢	318~322 1箇所	2,850	
		計		2箇所	4,850
改良	改良	水沢山	237外 2箇所	40	
		五六沢	156外 2箇所	40	
		黒沢支線	234外 2箇所	30	
		河鹿沢	242外 1箇所	20	
		金松寺	236 1箇所	30	
		蝶ヶ原併用	252 1箇所	20	
		大川	510 1箇所	20	
		コウ口沢	386外 2箇所	40	

(単位：m)

その他	改良	路線名	林班	箇所	延長	
		黒川支線	333外	2箇所	40	
		境峠	400外	2箇所	40	
		白川	1542外	1箇所	20	
		黒川	1533外	1箇所	30	
		入細沢	1582外	1箇所	20	
		福沢	1606外	2箇所	60	
		贄川支線	1589外	1箇所	30	
		計		22箇所	480	
合計	開設			3箇所	7,150	
	改良			63箇所	1,967	

(注) 災害復旧等緊急を要する工事については、指定箇所以外においても実行できる。

4 治山に関する事項

(単位：保全施設 箇所、保安林の整備 ha)

位 置	区 分	工 種	計 画 量
合戦沢・糠沢・白沢・坂巻・湯川・前川・霞沢・梓川筋 御鷹・横川・中谷川・金山沢・浦川・南股・北股・ 大川沢・白沢・扇沢・岩小屋沢・七倉沢・乳川・芦間川 黒川下流・峠沢・月夜沢・栃洞沢・魚イラズ沢・ 白川下流・白川上流・奈良井坊主岳・贄川坊主岳・贄川沢 橋戸沢	保 全 施 設	溪 間 工	33
合戦沢、中川、糠沢、冷沢、坂巻、湯川、霞沢、横川 浦川、魚イラズ沢 白川上流、奈良井坊主岳、贄川坊主岳、贄川沢、橋戸沢	保 全 施 設	山 腹 工	15
中部山岳計画区管内の保安林区域内	保 安 林 の 整 備	保 安 林 改 良	1,068.83
合 計	保 全 施 設	溪 間 工	33
		山 腹 工	15
	保 安 林 の 整 備	保 安 林 改 良	1,068.83

- (注) 1 保全施設の計画量「箇所数」は「単位流域」数を表す。  
 2 位置は単位流域を表す。  
 3 災害復旧等緊急を要する工事については、指定箇所以外においても実行できる。

5 保護林及び緑の回廊の名称及び区域

当計画区は貴重な自然環境としての天然林等が多数存在するため、国有林野事業の管理経営との調整を図りつつ適切に保護・保存を図って行くこととする。

また、緑の回廊を設定し、森林生態系の構成者である野生動植物の多様性の保全を図ることとする。

(1) 保護林の名称及び区域

(単位：ha)

種 類		森 林 生 態 系 保 護 地 域			
名 称	新 設 既設別	面 積	位 置 (林小班)	特 徴 等	施 業 等
北アルプ ス金木戸 川・高瀬 川源流部	既設	3,647.06	549ろ	日本海型から太平洋型 気候の推移帯である本州 中部に位置し、また、標 高が1,300m～3, 200mの範囲に及び北 アルプス(飛騨山脈)を 代表する原生的で多様な 天然林が存在している。 自然環境の維持、動植 物の保存、新しい時代 における森林に関する技術 の発展、学術研究に資す るための森林の生態系を 保護する。	保存地区の森林 は、原則として人 手を加えず自然の 推移にゆだねる。 保全利用地区の 森林については、 木材生産を目的と する森林施業は行 わない。 細部について は、「北アルプス 金木戸川・高瀬川 源流部森林生態系 保護地域計画」及 び、ライチョウ の保護管理につい ては「ライチョウ 希少野生動植物種 保護管理事業実施 方針書」により実 施する。
		保存地区 1,598.47	549口		
		保全利用 地 区 2,048.59	589は		
			589イ		
			589ニ		
			589ハ		
			549い		
			549に		
			549ほ		
			549イ		
			588ハ		
			588ニ		
			588へ		
			588ト		
			589い		
			589ろ		
589ホ					
589口					
面 積 計		3,647.06			

(単位：ha)

種 類		林 木 遺 伝 資 源 保 存 林			
名 称	新 設 既設別	面 積	位 置 ( 林 小 班 )	特 徴 等	施 業 等
風吹スギ	既 設	11.26	6 3 2 い02 6 3 2 ち	我が国有数の豪雪地帯に生育するスギ天然林は希少であり、その遺伝資源を保存する。	原則として伐採は行わない。 ただし、保存対象樹種の安定的かつ恒久的な存続を図るために必要な場合は、枯損木及び被害木の除去を中心とした弱度の択伐を行う。
鹿 島 ヒノキ等	既 設	10.94	5 0 2 ら02 5 0 2 む 5 0 2 う	我が国のヒノキ分布の北限部の一つである希少天然林であり、その遺伝資源を保存する。	
湯俣キタ ゴヨウマ ツ・カラ マツ等	既 設	63.76	5 4 7 ほ～と る・わ	カラマツ等と混生するキタゴヨウマツの大面積群落であり、その遺伝資源を保存する。	
上 高 地 ケヨウヤギ 等	既 設	8.43	8 6 に	昭和3年に我が国で最初に発見され、分布が限られている希少樹種のケヨウヤギ等の遺伝資源を保存する。	
面 積 計		94.39			

(単位：ha)

種 類		植 物 群 落 保 護 林		
名 称	新 設 既設別	面 積	特 徴 等	施 業 等
雨 飾 ・ 天狗原山	既 設	1,565.06	豪雪地帯における典型的な日本海型のブナ植物群落を保護する。	原則として、人手を加えずに自然の推移に委ねた保護管理を行う。
白 沢 天 狗 山	既 設	606.65	当地域の代表的な亜高山帯植生の植物群落を保護する。	
白 馬 岳 高 山	既 設	1,281.19	我が国でも有数の高山植物の豊富な地域で、国の特別天然記念物となっている高山植物群落を保護する。	

(単位：ha)

種 類		植 物 群 落 保 護 林		
鷲羽岳等 高山	既 設	1,844.97	鷲羽岳の南、東斜面及び真砂岳の南斜面に位置し、亜高山帯に至る高山草原、低木群落等の原生的な植生を保護する。	原則として、人手を加えずに自然の推移に委ねた保護管理を行う。
梓川・霞 沢	既 設	1,522.43	上高地に至る梓川溪谷一帯の亜高山性の天然林及び霞沢山一帯の豊かな高山植物等原生的な植生を保護する。	
大天井岳	既 設	1,782.69	コマツガ・シラベ・ダケカンバ等の亜高山帯からハイマツ等高山帯に至る原生的な植生を保護する。	
梓 湖	既 設	302.25	この地域を代表するミズナラ・カンバ等の天然性広葉樹林の植物群落を保護する。	
面 積 計		8,905.24		

(単位：ha)

種 類		特 定 地 理 等 保 護 林		
名 称	新 設 既 設 別	面 積	特 徴 等	施 業 等
針ノ木・ 爺ヶ岳	既 設	1,293.61	アルプス特有の典型的な特色のある山岳景観を成しており、特に針ノ木大雪渓は著名である。	地形・地質等の特性を踏まえ原則として森林施業は行わない。なお、保安施設事業の実施に当たっては、自然景観に配慮した工種・工法を採用し適切に行う。
五竜・鹿 島槍ヶ岳	既 設	1,317.22	断崖、岩壁容姿の五竜岳から南北の双峰を持つ鹿島槍ヶ岳一帯は地域のシンボルとして親しまれており、高山帯の原生的な植生と相まったアルプス特有の特異な地形・地理を保護する。	

(単位：ha)

種 類		特 定 地 理 等 保 護 林		
高瀬溪谷 噴湯丘	既 設	39.47	国の天然記念物に指定されている「高瀬溪谷の噴湯丘と球状石灰岩」の 一帯を保護する。	地形・地質等の特性を踏まえ原則として森林施業は行わない。なお、保安施設事業の実施に当たっては、自然景観に配慮した工種・工法を採用し適切に行う。
硫黄岳	既 設	597.73	硫黄岳・赤岳を結ぶ硫黄尾根の北斜面は硫気噴出の影響等により全山に渡ってほとんど植生がない状態である。この特異な地理を保護する。	
焼 岳	既 設	1,049.81	北アルプス唯一の活火山であり、また、噴出溶岩等特異な山容を示す焼岳一帯を保護する。	
槍ヶ岳・穂高	既 設	3,154.89	我が国有数の濁沢カールの他特徴的な稜線・滝等に植生豊かな自然環境は、中部山岳国立公園の核となるばかりではなく世界的にも日本を代表する山岳景勝地であるこの一帯を保護する。	
常念岳・蝶ヶ岳	既 設	2,223.57	松本・安曇平から北アルプス眺望のシンボルとして親しまれ二重山稜、亜高山帯から高山帯に至る原生的な植生と調和したアルプス特有の地形地理を保護する。	
乗 鞍 三 本 滝	既 設	25.19	大小の異なる三本の滝が一箇所に流れ落ち特異な景観である事から滝とその周辺の天然林を保護する。	

(単位：ha)

種 類		特 定 地 理 等 保 護 林		
乗鞍岳	既設	1,605.84	乗鞍岳山頂部に広がる火山群カルデラ(湖沼)等の特徴ある地形・地質と亜高山帯から高山帯に分布する植生等により構成される生態系、景観等を保護する。	地形・地質等の特性を踏まえ原則として森林施業は行わない。なお、保安施設事業の実施に当たっては、自然景観に配慮した工種・工法を採用し適切に行う。 すでに乗鞍道路、集団施設地区等の整備が行われている地域であり、入り込み者の自然観察教育等の取り扱いに配慮する。
面積計		11,307.33		

## (2) 緑の回廊の名称及び区域

(単位：km、ha)

種 類		緑 の 回 廊			
名 称	新 設 既設別	延 長	面 積	位 置 ( 林 小 班 )	特 徴 等
緑の回廊 雨飾・戸隠	既設	10.4 (16.6)	1,983.75 (3,792.09)	609全 610い、ろ 611い～は、ほ 612い～ほ 613～616全	緑の回廊設定区域は、雨飾・天狗原山植物群落保護林から千曲川下流計画区にまたがり、野生動物の日常行動や季節移動等の経路をつくることにより、分断された個体の交流を促す等、森林生態系の構成者である野生動植物の多様性の保全を図ることを目的とする。 林況は、ブナを主とする広葉樹天然林が大半を占めている。 施業については「緑の回廊雨飾・戸隠設定方針」による。

(注) ( ) 書きは千曲川下流森林計画区と合わせた緑の回廊設定総延長及び総面積である。

6 レクリエーションの森の名称及び区域

(単位：ha)

種 類		自 然 観 察 教 育 林				
名 称	新・改 既設別	面 積	位 置 ( 林 小 班 )	選 定 理 由	施 業 等	
上高地	既 設	608.77	84ろ、へ 85に ----- 82へ・83ろ～ほ、と ～る・84は～ほ、と～ り・85ろ、は、ほ～ち 86い・88ろ・100 ろ・111ろ、は 112ろ・113ろ・ 114ろ、は・ 115は、に、へ・ 116ろ・117は・ 118は ----- 82ハ～ホ・83イ、ハ ～チ・84イ、ロ、ニ～ チ・85イ・86イ、ハ 89イ・100ニ 106イ・107ハ、 リ、ヌ・111イ、ハ、 ニ、ホ・112イ 113イ・114ロ 115イ・118ニ～へ	大正池をはじめとして湖と湿原を有する平準な梓川一帯は北アルプスの山岳景観を背景に動植物が豊かに生息しているなど自然観察教育の場として適している。	カラマツの人工林については多様な動植物の生息・生育に必要な林床照度確保のため、間伐等を実施し針広混交の多層林の整備に努める。  (保健機能森林に該当)  優れた自然景観を背景にした天然林及び河川沿いのケショウヤナギ等の林については自然の推移に委ね現状林分の維持に努める。	育成複層林施業 ----- 天然生林施業 ----- 林地以外
扇 沢	既 設	22.10	524と、る、よ 525ろ、は、る、か、 つ～な ----- 524ロ～ニ、ト、チ	立山・黒部アルペンルートの長野県側の玄関口にある。隣接地には動植物園・キャンプ場等の施設があり多くの利用者が集まることなどから自然観察教育の場として適している。	天然林は現状林分の維持に努める。	天然生林施業 ----- 林地以外
面 積 計		630.87				

(単位：ha)

種 類		野 外 ス ポ ー ツ 地 域				
名 称	新・改 既設別	面 積	位 置 ( 林 小 班 )	選 定 理 由	施 業 等	
岩 岳	既 設	160.23	628な 629へ、り、ぬ る1~る3、よ~れ む、お~ま ----- 628ら 629ほ、わ か01~か06、う、の ----- 629ハ	昭和57年度設定の 野外スポーツ地域で隣 接の岩岳スキー場と一 体となり多くの利用者 がある。豊富な積雪と 地形等から隣接スキー 場と一体となり、周辺森 林とともに三季型の利 用が見込まれる。	カラマツの人工 林を主とした森林 で、混入している 広葉樹等の保残を 図り、針広混交林 に誘導する。 天然林は自然の 推移に委ね現状林 分の維持に努め る。	育成複層林施業 ----- 天然生林施業 ----- 林地以外
乗 鞍	既 設	195.67	144そ、つ ----- 142い 144い~は、る わ~よ、ね、な ----- 142イ 144ハ~ホ、チ	昭和45年に設定さ れたスキー場で豊富な 粉雪でダイナミックな スキー場として親しま れ、隣接地の観光施設 と一体的に四季を通じ て多くの利用者があり、 野外スポーツの場とし て適している。	カラマツの人工 林を主とした森林 で、混入している 広葉樹等の保残を 図り、針広混交林 に誘導する。 天然林は自然の 推移に委ね現状林 分の維持に努め る。	育成複層林施業 ----- 天然生林施業 ----- 林地以外
奈 川	既 設	50.84	402に 403へ 405ろ~ち 406ろ ----- 405イ、ロ	木曾路原高原休養開 発計画の一環として整 備されたスキー場で、 緩急に富んだ地形や良 好な雪質から初心者か ら上級者まで利用でき 野外スポーツの場とし て適している。	天然林は自然の 推移に委ね現状林 分の維持に努め る。	天然生林施業 ----- 林地以外
面 積 計		406.74				

(単位：ha)

種類		風景林			
名称	新・改 既設別	面積	位置 (林小班)	選定理由	施業等
天狗原	既設	239.39	635ろ~に ----- 635ロ、ハ	白馬乗鞍岳登山道周辺の高山帯と森林と高層湿原は池塘群や豊かな高層湿原で構成され、美しい自然景観と色調の高い森林美を有している。	天然林は、自然の推移に委ね現状林分の維持に努める。  天然生林施業 ----- 林地以外
中房溪谷	既設	294.20	203わ 204ろ、と、 ち~る、よ、つ、ね、 む、の、お 205ろ~に 208は、211に 203ら・204い は、に、へ、か、た~ そ、ら、う、く 205い、ほ 208い、ろ、に 209と 210に、へ、ち 211い~は、ほ、た 212へ、と 213ろ 215む、う ----- 204ロ・205ロハ 208へチ・215イ	県道槍ヶ岳・矢村線沿線から中房温泉の背景林のカラマツを主とする人工林及びミズナラ等を主とする天然林で構成され、四季折々れる多くの湯治客や登山道等を魅了する美しい自然景観と色調の森林美を構成している。	カラマツの人工林については、混入している広葉樹の保残を図り針広混交林に誘導する。  天然林は、自然の推移に委ね現状林分の維持に努める。  育成複層林施業 ----- 天然生林施業  ----- 林地以外
白骨温泉	既設	141.09	140へ・と ----- 131い 132い~ほ 140い~ほ	白骨温泉の背景林で人工林はカラマツを主とし、天然林はコメツガ、トウヒ、ミズナラ、カンバ等の高齢級の林分で構成されている。古くから白濁した温泉で著名な白骨温泉と一体的に利用されている。	カラマツの人工林については、混入している広葉樹の保残を図り針広混交林に誘導する。  天然林は、自然の推移に委ね現状林分の維持に努める。  育成複層林施業 天然生林施業

(単位：ha)

種 類		風 景 林			施 業 等	
名 称	新・改 既設別	面 積	位 置 (林小班)	選 定 理 由	施 業 等	
奈川渡	既 設	705.79	64い~ほ 65い~に 66い 67い~は 68い、り 69い、ろ ----- 64イ~チ・65イ 66イ01・67イ 68イ・69イ	国道158号線奈川渡ダム周辺の森林でコメツガ・ミズナラ等の天然林で構成され、四季をとおした色調の変化等緑と水が調和し山岳ダム湖の風致景観を構成している。	天然林は、自然の推移に委ね現状林分の維持に努める。	天然生林施業      ----- 林地以外
沢 渡	既 設	306.92	78い、ほ、と、ち、ぬ ----- 128い、に 78ろ~に、へ、り 128ろ、は、へ、そ、つ ----- 78イ~ハ 128イ、ホ~ト	山岳景勝地上高地への玄関口で沢渡地区を取り巻く森林で駐車場施設等と一体となり入り込み客に潤いを与える風致景観を構成している。	スギ、カラマツの人工林については、混入している広葉樹の保残を図り針広混交林に誘導する。 天然林は、自然の維持に努める。	育成複層林施業   天然生林施業  ----- 林地以外
梓・安房峠	既 設	422.11	126は 127は 128ほ、と~ぬ 129い、は、に ----- 82と・120ろ 122に、ほ 123い 124は~ほ 125は 126と~ぬ 127へ、と 128る、わ 129ほ、へ、る ----- 82イ 120ニ 122イ~ハ 123イ、ロ 124イ~チ 125イ 128ロ、ハ	国道158号線安房峠周辺の森林はブナ帯から亜高山性樹種へと植生が変化し、風雪に耐えた巨樹が優れた風致景観を構成している。	天然林は、自然の推移に委ね現状林分の維持に努める。	育成複層林施業   天然生林施業      ----- 林地以外

(単位：ha)

種 類		風 景 林				
若 沢 寺 跡	既 設	7.82	237ろ、へ、ち	松本市の史跡である若沢寺跡を囲むスギ等の人工林で構成され周辺の森林と歴史的風致を構成している。	スギ・ヒノキ・アカマツ・カラマツ等の人工林については、混入している広葉樹の保残を図り針広混交林に誘導する。	育成複層林施業
乗鞍岳	既 設	420.67	143に、と 144ち、り ----- 136イ 137イ 143イ~ホ 144イ、ロ、へ、ト 145イ	乗鞍岳の雄大な地形と亜高山帯植生から高山帯植生と地形の変化・風雪に耐えた巨樹と枯損木の調和等優れた景観を構成している。	天然林は、自然の推移に委ね現状林分の維持に努める。	天然生林施業 ----- 林地以外
浅間・ 湯ノ原	既 設	44.82	251-1は 251-2に~と 251-3へ、と、 り、わ、か ----- 251-1い、ろ、に ~へ 251-2い~は 251-3い~ほ、 ち、ぬ、る、よ ----- 251-1イ 251-3イ~ハ	浅間温泉及び美ヶ原温泉の後背林で主としてアカマツで構成されている。北アルプスをはじめ松本平等の眺望も良く市民等の散策の場として利用されている。平成14年度には本郷小学校と「遊々の森」協定を締結し児童達に利用されている。	アカマツ天然林は現状の維持に努めるがマツクイムシの進入に対して、保護巡視活動を強める。アカマツ人工林については、混入している広葉樹を保残し、針広混交林に誘導する。	育成複層林施業 ----- 天然生林施業 ----- 林地以外
ビーナス ライン	既 設	28.78	247わ~た、その 248ほ、へ ----- 248に、り ----- 247イ~ハ	多くの利用者があるビーナスラインや、県道及び信濃路自然歩道沿いのカラマツ・ダケカンバや下層のレンゲツツジ等色調の変化のある山稜的な森林は優れた風致景観を構成している。	カラマツの人工林については、混入している広葉樹の保残を図り針広混交林に誘導する。天然林は、自然の推移に委ね現状林分の維持に努める。	育成複層林施業 ----- 天然生林施業 ----- 林地以外

(単位：ha)

種 類		風 景 林				
権兵衛峠	既 設	80.72	15533 15543 ----- 1553い、ほ 1554い、は~ほ	伊那谷と木曾谷を結ぶ国道361号線権兵衛峠一帯はサワラ・コメツガ・ミズナラ等が混交する天然林で、歴史のある峠一帯の優れた景観を構成し、峠を訪れる多くの利用者に親しまれている。	カラマツの人工林については、混入している広葉樹の保残を図り針広混交林に誘導する。 天然林は、自然の推移に委ね現状林分の維持に努める。	育成複層林施業 ----- 天然生林施業
面 積 計		2,692.31				

種 類		風 致 探 勝 林				
名 称	新・改 既設別	面 積	位 置 (林小班)	選 定 理 由	施 業 等	
風吹大池	既 設	115.98	630に、そ 636ほ、ち、ぬ ----- 630イ、ロ	亜高山性樹種のアオモリトドマツを主体とした天然林に囲まれた神秘的な風吹大池がありファミリー登山者をはじめ多くの利用者があり風致探勝の場として適している。	天然林は、自然の推移に委ね現状林分の維持に努める。	天然生林施業 ----- 林地以外
椴池湿原	既 設	364.09	627よ01、そ 628れ01、ぬ ----- 627ロ	アオモリトドマツ・トウヒ・ブナ等が散在する樹林と高層湿原の池塘群は隣接する椴池高原と一体となり雄大な白馬連峰の眺望と相対した高原景観を形成し、優れた自然探勝の場を構成している。	天然林は、自然の推移に委ね現状林分の維持に努める。	天然生林施業 ----- 林地以外

種 類		風 致 探 勝 林				
美ヶ原	既 設	546.00	245い~に、へ、 と、ぬ~よ	八ヶ岳中信高原国 定公園の一角を占め る美ヶ原一帯は高原 台地の牧場と一体と なった矮性化したカ ラマツ人工林と草 原、富士山を始め南 北・中央アルプスの 山々の眺望等が優れ 自然探勝の場として 適している。	カラマツの人工林 については、混入し ているカンバ等の保 残を図り針広混交林 に誘導する。 天然林は、自然の 推移に委ね現状林分 の維持に努める。	育成複層林施業
			246い、ろ、に、ほ 252ほ、と、り			天然生林施業
			245ほ、ち、り 246は、へ			林地以外
			252い~に、へ、 ち、ぬ			
			245イ~レ 246イ~ヨ 252イ~ホ			
野麦峠	既 設	93.28	338い~は 340へ、ぬ、る、 か、た、そ	旧野麦街道沿線及 び野麦峠一帯はサワ ラ、ウラジロモミ等 の老壮齡天然林及び カラマツ人工林で構 成され峠や旧街道と 一体となった自然景 観を構成しており自 然探勝、憩いの場と して利用されてい る。	カラマツの人工林 については、混入し ている広葉樹の保残 を図り針広混交林に 誘導する。 天然林は、自然の 推移に委ね現状林分 の維持に努める。	育成複層林施業
			341い~に、へ、 ち、ぬ~よ			天然生林施業
			342い~は、ほ、 と~る			林地以外
			340わ、よ、れ、つ 341ほ、と、り			
			342に、へ			
			338イ 340イ、ロ 341イ 342イ			
木曽路原	既 設	11.31	401は、れ、つ 404と	県道奈川木祖線境 峠周辺の楢原高原一 帯は木曽路原と呼ば れ高原内にある施設 フォレストフィールド 奈川と一体化した 自然探勝・憩いの場 として適している。	ヒノキ・モミ等の 人工林については、 混入している広葉樹 の保残を図り針広混 交林に誘導する。 天然林は、自然の 推移に委ね現状林分 の維持に努める。	育成複層林施業
			404い			天然生林施業
面 積 計		1,130.66				

(参考) レクリエーションの森以外の森林空間利用タイプの施業方法等 (単位: ha)

対象団地	面積	関係林小班	施業等	
八伏峰	67.01	249れ、そ	<p>八ヶ岳中信高原国定公園の八伏峰の草生地と広葉樹天然林で構成されている。</p> <p>人工林は、混入している広葉樹の保残を図り針広混林に誘導する。</p> <p>天然林は自然の推移に委ね現状林分の維持に努める。</p>	育成複層林施業
		249り、よ		天然生林施業
		249イ~ハ 250イ~ホ		林地以外
白馬	168.97	623に、ち~ぬ、よ、れ、き、み	<p>スギ、カラマツの人工林は、混入している広葉樹の保残を図り針広混交林に誘導する。</p> <p>天然林は自然の推移に委ね現状林分の維持に努める。</p>	育成複層林施業
		624い、ほ、へ、ち~る、か、た~つ、な、ゆ		天然生林施業
		625い		
		623ほ、へ、の、ゆ		天然生林施業
		624は、に、と、わ、ね、ら、む、ひ、ん01		
		625ろ~へ、ち~る		林地以外
623ロ				
624ハ 625ト				
計	235.98			

7 その他必要な事項

(1) 施業指標林、試験地等

(単位：ha)

種類	名称	設定年	面積	位置 (林小班)	備考
施業指標林	河鹿沢天然林	S 58年度	4.21	244や	天然林施業体系の確立
	雨飾山天然林	S 59年度	1.90	604か	天然林施業体系の確立
試験地	カラマツ間伐試験地	S 44年度	0.99	247お～ま	
	白川カラマツ 人工林収穫試験	S 44年度	1.23	1546は	(森林総研)
次代検定林	関長-6 (一般)	S 45年度	1.02	242た	アカマツ
	関長-6 (一般)	S 45年度	2.13	242れ	アカマツ
	関長-24 (一般)	S 53年度	0.35	236ま	スギ
	関長-34 (一般)	S 61年度	0.76	582よ	ヒノキ
	関長-35 (一般)	S 63年度	0.33	403と	ウラジロモミ
	関長-36 (一般)	S 63年度	0.49	403ち	チョウセンゴヨウ
遺伝子保存林	長遺-20号	S 52年度	4.04	215へ	
精英樹 保護林	カラマツ	S 32年度	0.50	85は	松本101・102号
	ウラジロモミ	S 43年度	0.83	348へ	藪原101号
	ウラジロモミ	S 43年度	0.50	348と	藪原102・103号
	ウラジロモミ	S 43年度	1.13	387に	藪原104・105号
	スギ	S 41年度	1.49	1605り	奈良井1号・2号
特別母樹林	特45-4	S 45年度	1.31	204は	カラマツ
	特45-5	S 45年度	1.68	85ろ	カラマツ
巨樹・巨木	カラマツ (奈良井のジャポカマツ)	H 12年度		1554林班内 (巨樹・巨木が存する林分)	通達【巨樹・巨木に関する自主的な保全活動の推進について】により選定
森林施業 モデル林	育成複層林施業 (針広混交林化)	H 11年度	3.88	244せ	国土保全タイプ

(2) フィールドの提供

ア 遊々の森

(単位：ha)

名称	面積	位置	設定の目的等
どすこい山	9.75	251-I	協定相手方:松本市立本郷小学校 協定年度 平成15年度 目的 国有林野を林業体験、自然観察等の多様な体験活動の場として活用を図る。
計	9.75		